

目指す学校像	【かしこく】自ら考え正しく判断する児童が集う学校 【たくましく】健康でたくましい児童が集う学校	【やさしく】やさしさと思いやりのある児童が集う学校
--------	--	---------------------------

重点目標	1 個別最適化を念頭に取り組む確かな学力の育成と、本校のSTEAMS教育の推進 2 リフレッシュ工事期間において取り組む「心と体を育む教育活動」の工夫 3 大戸小コミュニティ・スクールの理念の共有と、地域とともにある学校づくりの推進 4 ICT機器活用実践の推進と、キャリア段階を踏まえた教師力の伸長
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和 7年2月6日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均をやや下回った。特に国語では表現力が、算数ではデータ活用場面で苦手である。 ○日頃の学習態度を見ると、真面目な取組の児童が多い。 ○各学級に、集団での学習に難しさをかかえ、個別支援が有効と考えられる児童が在籍している。 〈課題〉 ○解答にあたり「無回答率」が高いこと。 ○個別最適化した学習の提供と個に応じた学び。	・個別最適化を目指した授業改善	①本校児童の課題の一つである「データ活用能力の育成」には、タブレットのによる個別最適化された学習を行う。 ②個別学習により学習効果を期待できる児童に対し、ICTを活用したスタディサプリ等の学習を継続する。	①全国調査の結果をもとに児童が自己の弱点を理解した学習感想が書けたか。担任が解説授業を1時間実施したか。 ②スタディサプリを活用し、教師支援のもと、児童が各自の課題を解決する学びができたか。	・タブレットを活用しながら行う個別の深い学びについて「学びの指標」1～5の調査項目に着目し、R5市平均と比較した。その結果R6の本校は、＋0.17の肯定的評価を得た。	A	・個別最適化を念頭に、児童自らが考えて学ぶ力を育成するために、コーチングの理論を指導に取り入れていく。	・タブレットを活用した授業を参観して、児童のPCを使いこなす能力や適応力に感心した。 ・五感を使う体験も大切であるとの意見も頂いた。
		・本校の実態や発達段階に適したSTEAMS教育の実践	①タブレットの活用を通して、自己の考えを表現する機会や方法を多く体験し、無回答率を減らす。 ②児童の発達段階や興味・関心に応じたSTEAMS学習を計画し、マイクロビットやマインクラフトなどを活用する。	①学習状況調査において無答率が10％減少したか。 ②本校独自の STEAMS 学習の実践が各学年1つ以上行えたか。	・R6年度の全国学調における無答率は国語3.5%、算数1.6%で、本校としては前年度比50％減を達成した。	A	・引き続き無答率の減少を目指し取り組んでいく。	
2	〈現状〉 ○現在令和8年度完成を目指したリフレッシュ工事期間中であり、年度途中での校庭利用制限、解体に伴う騒音・振動が常時ある。 ○登下校の見守りは、保護者、自治会をはじめとするボランティアの方々等の協力が充実している地域である。 〈課題〉 ○様々なストレスが、児童を取り巻いている事に留意し、家庭や地域との協力、関係諸機関との連携に努め、教育相談・生徒指導を組織的に支援する。 ○工事を含めた施設設備の安全点検を教職員が徹底するとともに、児童にも危機回避能力をつける指導をすることが引き続き求められる。	・リフレッシュ工事期間に日々変わる利用可能な教育環境を踏まえた安全・安心な教育活動の推進	①常に安全に学習が進むように、大戸ルールの徹底を図るとともに、登下校時の教職員の安全指導により自ら危機管理のできる児童を育成する。 ②学校地域連携コーディネーターや管理職が地域諸団体と良好な関係を持ち、児童の教育活動にあたる。	①学校評価において、安全に関連する教職員のアンケート結果が、88％以上肯定的になったか。 ②登下校指導や地域の安全に関する活動に、職員が少なくとも年間1度は参加し、協働できたか。	・リフレッシュ工事は順調に進み、解体作業のための連絡会は必要に応じ実施した。児童・教職員の関わる事故は0である。 ・工事の進捗については学校HPも活用し、地域やOB向けにも情報発信ができた。 ・登下校指導や緊急対応など安全にかかわる教職員の活動参加は年間3回以上を達成している。	B	・令和7年度の昇降口棟建設においても安全安心な学校を維持する。 ・R7から実施する朝の個別登校を確実に実施する。	・リフレッシュ工事で児童の学んでいる教室がとても明るくなり良かった。
		・個に応じた教育相談、生徒指導体制の充実と関係諸機関との連携	①アンケートやスクールダッシュボード日々の見取りなどによる児童理解に努め、信頼関係に立つ支援体制を整える。 ②SCやSSWと連携し、児童・保護者に対する支援を積極的に行う。その場合、全教職員で情報共有につとめ、チームとして支援にあたる。	①毎月実施する生徒指導、教育相談の2部会において情報交換が適切に行われ、指導後の見守りまで完遂したかどうか。 ②関係諸機関との連携が、児童、保護者のためにタイミングを逸することなく行われたか。	・生徒指導部会と教育相談部会を分けて開催した結果、児童への理解や支援への具体的な内容を協議する時間が保証でき、全校での見守りにより一層つながった。 ・SC、SSWとの連携は必要に応じ進めた。	B	・スクールダッシュボードの効果的な活用と、関係諸団体との連携の在り方を考える。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会は、実施3年目を迎え、スローガンの作成と、地域一体で児童生徒の育成にあたる方針の周知を進める段階にある。 ○地域の活動の多くが再開される中、児童のために、働き方改革も踏まえた持続可能な学校のかかわり方を検討している。 ○地域コーディネーターが中心となり、地域とともにある学校の広報活動や調整を進めている。 〈課題〉 ○アンケートの結果「あいさつ」について地域の方からの評価が低い点を引き続き改善する。 ○学校運営協議会での熟議を通して、「スローガン」の作成まで来ている。今後はその周知に関する具体的方策を定め、地域、保護者に周知する。	・挨拶ができることのよさに気づき、校外でも挨拶のできるような児童を育成する取組。	①管理職や教員が朝の登校時に昇降口や通学路に立ち、あいさつを励行する。TPOに合わせた挨拶ができる児童を目指す。 ②本校HP内の充実を図り、平均月6回ペースで更新をすることで、関心を持ち続けてもらう。	①児童会を中心に、本校の課題である「学校外でのあいさつ」を励行し、登下校の安全確認や外部の方との関係構築も含め「あいさつ」が出来たか。 ②学校評価のアンケートであいさつに関わる項目で88％の肯定的回答を得られたか。	・登校時の立哨挨拶は、2学期以降自発的に始まった教職員の朝のあいさつと、児童会のキャンペーン（中学校と合同を含め3回既に実施）に移行した。学校評価によるあいさつの肯定的評価は93％であった。	A	・中学校との連携によるあいさつの励行を引きつづき継続する。 ・時と場に合わせた挨拶もできるようにさらに成長させたい。	・挨拶は本当に良くなったと思う。卒業した中学生もかかわる事は良い。 ・大戸小学校のある地域は昔から自治会や青年団、育成会、子供会、商店や施設が行事などを通して児童とかかわっている。今後もそれらを大切に、広報もできればよい。
		・学校、保護者、地域が一体となって児童の育成に取り組むための指針をコミスクで共有化するための取組	①学校運営協議会をスムーズに開催し、そこで目指す児童像についてのスローガンについて熟議を行う。結果は学校HPや学校だよりで発信する。 ②作成したスローガンや承認されたグラントデザインを基に、行事の計画や具体的方策を定める。	①学校評価に係る「児童」「保護者」「教職員」アンケートで、児童の成長を感じられる項目において、5ポイント以上の改善成果がえられたか。 ②年3回の学校運営協議会が計画通り開催され、その内容をHP等で広報できたか。	・学校運営協議会で熟議して決定した「わくわくスローガン」の宣言は、全児童が書いたカード450枚の一斉掲示ができた。1ヶ月の掲示期間を設け、児童の自己肯定感を高め、他者参照の体験にもなった。	A	・学校HPはブログを中心に平均週1回の更新が達成でき、1月29日現在36888アクセスとなった。昨年の10月以降だけで13000アクセスの増となっているこのツールを運営協議会の情報発信に次年度活用する。	
4	〈現状〉 ○タブレットやICT機器を用いた授業について、エバンジェリストや情報主任を中心に研修してきた。 ○5、6年生の教科担任制を進めている。 ○キャリアIの教職員に校内研修会を実施した。 〈課題〉 ○教科担任制を生かして、次年度も使えるシラバスを作成すること。 ○2年～6年でスタディサプリを導入し、家庭でも効果的に使えるように教職員の研修会を継続する。 ○ICT機器の利用頻度が低いと感じる児童が多い ○児童用タブレットの修理期間が長い。 ○教職員の後任を育て大戸小の良さを継承する。	・タブレット研修会の定期的な実施	①ICTに関する研修を学校課題研修に位置づけ、校内研修を月2回のペースで実施する。 ②教科担任制にいち早く取り組んだデータを活かしたシラバスの作成を継続し他校へも情報提供をする。	①全ての教職員がタブレットの機能を理解し、児童の個別最適な学習のツールとして日常的に活用するようになったか。 ②中央区校長会において、教科担任制の本校の今年度の取組みのまとめを情報提供できたか	・個別最適化の授業に向けて授業改善が図られた結果、児童の学校評価で「タブレットを使用した学習が得意」との解答が80％を超えた結果から明らかであると考える。 ・教科担任制の取り組みについては、既に各校でも進んでおり、中央区の校長会ではそれぞれの学校における情報提供ができた。	B	・発達段階に応じたタブレット活用のリテラシーや、情報を扱う上でのモラル、危機管理能力の育成の場を設定する必要がある。	・引き続き児童のために取り組んでいただきたい。
		・キャリアIの教職員に自主的な研修を促し、キャリアⅢの教職員が参加することで教師力の継承を図る	①キャリアI教職員の自主研修にキャリアⅢの教職員が学期1回程度参加し、指導する。 ②ICT機器の利用を促進するために、大戸小の児童に効果的な場の設定に関する教職員研修を夏季休業中に実施する。	①キャリアIの教職員の自己評価シートにおいて、「学級づくり」や「学習指導」の項目で教職員自身が成長したという自己評価が、記述内容に表れたか。 ②ICT機器の利用頻度について昨年度比120％を達成したか	・キャリアI教職員及び臨時的任用教職員については1、2学期中に管理職の指導を2度行なった。その結果、キャリアI教職員の「学びの指標」における該当項目の平均値は3.75となり昨年度から10％の向上となった。 ・ICTの利用頻度については同じ項目でのアンケート実施を本年度行わなかった。	B	・参加自由の教職員による自主研修会を、大戸小の良き伝統として定着させる。	